

# 四 半 期 報 告 書

(第206期第3四半期)

株式会社 第四銀行

(E03560)

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	7
1 【株式等の状況】 .....	7
2 【役員の状況】 .....	8
第4 【経理の状況】 .....	9
1 【四半期連結財務諸表】 .....	10
2 【その他】 .....	23
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	24

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月6日

【四半期会計期間】 第206期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)

【会社名】 株式会社第四銀行

【英訳名】 The Daishi Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 並木富士雄

【本店の所在の場所】 新潟市中央区東堀前通七番町1071番地1

【電話番号】 (025)222局4111番(代表)

【事務連絡者氏名】 総合企画部長 柴田 憲

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋室町1丁目6番5号だいし東京ビル  
株式会社第四銀行 東京事務所

【電話番号】 (03)3270局4444番

【事務連絡者氏名】 執行役員東京支店長兼東京事務所長 殖栗道郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社第四銀行 東京支店  
(東京都中央区日本橋室町1丁目6番5号だいし東京ビル)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

		平成27年度第3四半期 連結累計期間	平成28年度第3四半期 連結累計期間	平成27年度
		(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
経常収益	百万円	75,026	70,643	98,377
経常利益	百万円	20,551	13,934	24,353
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	12,914	9,819	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	—	—	14,467
四半期包括利益	百万円	8,052	10,446	—
包括利益	百万円	—	—	△1,415
純資産額	百万円	333,021	325,947	319,683
総資産額	百万円	5,210,216	5,594,339	5,342,251
1株当たり四半期純利益金額	円	37.55	28.62	—
1株当たり当期純利益金額	円	—	—	42.04
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額	円	37.37	28.49	—
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	円	—	—	41.84
自己資本比率	%	5.95	5.54	5.70

		平成27年度第3四半期 連結会計期間	平成28年度第3四半期 連結会計期間
		(自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)	(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	8.26	6.88

- (注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。  
2. 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。  
3. 自己資本比率は、( (四半期) 期末純資産の部合計 - (四半期) 期末新株予約権 - (四半期) 期末非支配株主持分 ) を (四半期) 期末資産の部の合計で除して算出しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更又は新たに発生した「事業等のリスク」はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の国内経済は、一部に改善の遅れもみられるものの緩やかな回復基調が続きました。また、個人消費は持ち直しの動きが見られ、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、底堅く推移いたしました。

当行グループにおける主要な営業基盤である新潟県内の景気においては、個人消費は持ち直し基調にあり、住宅投資は回復し、設備投資も緩やかな増加基調となりました。雇用・所得環境も、労働需給面で改善を続けた結果、緩やかな回復を続ける展開となりました。

こうしたなか、当行では平成27年度からスタートした中期経営計画「ステップアップ2nd Stage（セカンドステージ）」（計画期間：平成27年4月から平成30年3月）に基づき、お客さまとの信頼関係強化に努めるとともに、業績の伸展と経営体質の改善・強化に取り組んでまいりました。

このような環境のもと、当行グループのコア業務である銀行業において、貸出金の増強、機動的な有価証券運用、預り資産ならびに投資銀行業務の強化に鋭意努めてまいりました結果、当第3四半期連結累計期間末の主要勘定につきましては、以下のとおりとなりました。

預金につきましては、期中390億円増加し4兆3,849億円となりました。

貸出金につきましては、期中1,603億円増加し3兆1,101億円となりました。

有価証券につきましては、期中78億円増加し1兆7,924億円となりました。

損益状況につきましては、経常収益は、貸出金利息が減少したことなどから、前第3四半期連結累計期間比43億82百万円減少の706億43百万円となりました。経常費用は、外貨の資金調達コストが増加したことなどから、前第3四半期連結累計期間比22億35百万円増加の567億9百万円となりました。以上の結果、経常利益は前第3四半期連結累計期間比66億17百万円減益の139億34百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間比30億94百万円減益の98億19百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①銀行業

第四銀行の収益面につきましては、経常収益は前第3四半期連結累計期間比33億45百万円減少の556億65百万円、セグメント利益（経常利益）は前第3四半期連結累計期間比58億13百万円減益の129億7百万円となりました。

#### ②リース業

リース業の収益面につきましては、経常収益は前第3四半期連結累計期間比3億11百万円増加の131億94百万円、セグメント利益（経常利益）は前第3四半期連結累計期間比1億75百万円増益の8億24百万円となりました。

#### ③証券業

証券業の収益面につきましては、経常収益は前第3四半期連結累計期間比1億59百万円減少の21億60百万円、セグメント利益（経常利益）は前第3四半期連結累計期間比1億19百万円増益の3億44百万円となりました。

#### ④その他

銀行業、リース業、証券業以外のその他の事業の収益面につきましては、経常収益は前第3四半期連結累計期間比35百万円増加の31億57百万円、セグメント利益（経常利益）は前第3四半期連結累計期間比1億26百万円減益の8億78百万円となりました。

国内・国際業務部門別収支

当第3四半期連結累計期間の資金運用収支は、国内業務部門で前第3四半期連結累計期間比16億円減益の341億円となり、国際業務部門でほぼ横這い、相殺消去額が9億円増加した結果、全体では前第3四半期連結累計期間比25億円減益の351億円となりました。

役務取引等収支は、国内業務部門で前第3四半期連結累計期間比9億円減益の100億円となり、国際業務部門でほぼ横這いとなった結果、全体では前第3四半期連結累計期間比9億円減益の95億円となりました。

その他業務収支は、国内業務部門で前第3四半期連結累計期間比でほぼ横這いの8億円となり、国際業務部門で前第3四半期連結累計期間比16億円減益の5億円となった結果、全体では前第3四半期連結累計期間比17億円減益の14億円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	35,791	1,921	18	37,694
	当第3四半期連結累計期間	34,141	1,946	923	35,164
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	37,579	3,031	150	72 40,388
	当第3四半期連結累計期間	35,199	4,364	1,022	36 38,504
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	1,788	1,109	131	72 2,693
	当第3四半期連結累計期間	1,058	2,418	99	36 3,340
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	11,071	57	541	10,587
	当第3四半期連結累計期間	10,086	54	549	9,592
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	15,352	96	1,393	14,055
	当第3四半期連結累計期間	14,576	104	1,522	13,158
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	4,281	39	852	3,468
	当第3四半期連結累計期間	4,489	49	973	3,565
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	871	2,290	—	3,162
	当第3四半期連結累計期間	863	594	—	1,458
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	1,232	2,321	—	3,554
	当第3四半期連結累計期間	1,065	1,287	—	2,353
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	360	30	—	391
	当第3四半期連結累計期間	202	693	—	895

- (注) 1. 「国内業務部門」は、当行の円建取引及び連結子会社であります。「国際業務部門」は、当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。
2. 「相殺消去額」は、連結修正仕訳の金額を利用しております。
3. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。
4. 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用（前第3四半期連結累計期間0百万円、当第3四半期連結累計期間0百万円）を控除して表示しております。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

当第3四半期連結累計期間の役務取引等収益は、前第3四半期連結累計期間比8億円減少の131億円となりました。役務取引等費用は前第3四半期連結累計期間比97百万円増加の35億円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	15,352	96	1,393	14,055
	当第3四半期連結累計期間	14,576	104	1,522	13,158
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	3,906	—	107	3,798
	当第3四半期連結累計期間	4,051	—	129	3,921
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	3,768	86	75	3,780
	当第3四半期連結累計期間	3,690	95	76	3,708
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	3,077	—	102	2,975
	当第3四半期連結累計期間	2,407	—	229	2,177
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	130	—	—	130
	当第3四半期連結累計期間	128	—	—	128
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	84	—	—	84
	当第3四半期連結累計期間	88	—	—	88
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	1,321	10	666	665
	当第3四半期連結累計期間	1,360	9	660	708
うち請負業務	前第3四半期連結累計期間	759	—	412	347
	当第3四半期連結累計期間	725	—	344	380
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	4,281	39	852	3,468
	当第3四半期連結累計期間	4,489	49	973	3,565
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	782	39	75	747
	当第3四半期連結累計期間	792	49	76	765

(注) 1. 「国内業務部門」は、当行の円建取引及び連結子会社であります。「国際業務部門」は、当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2. 「相殺消去額」は、連結修正仕訳の金額を使用しております。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

○ 預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	4,264,319	26,405	10,716	4,280,009
	当第3四半期連結会計期間	4,361,070	37,022	13,181	4,384,911
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	2,692,285	—	9,074	2,683,211
	当第3四半期連結会計期間	2,841,180	—	10,500	2,830,679
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	1,549,573	—	1,596	1,547,977
	当第3四半期連結会計期間	1,509,290	—	2,496	1,506,794
うちその他	前第3四半期連結会計期間	22,460	26,405	45	48,820
	当第3四半期連結会計期間	10,600	37,022	184	47,438
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	241,911	—	6,390	235,521
	当第3四半期連結会計期間	196,062	—	5,640	190,422
総合計	前第3四半期連結会計期間	4,506,230	26,405	17,106	4,515,530
	当第3四半期連結会計期間	4,557,132	37,022	18,821	4,575,333

- (注) 1. 「国内業務部門」は、当行の円建取引及び連結子会社であります。「国際業務部門」は、当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。
2. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
3. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
4. 「相殺消去額」は、連結修正仕訳の金額を使用しております。

国内・海外別貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	2,928,459	100.00	3,110,177	100.00
製造業	359,903	12.29	369,265	11.87
農業、林業	5,325	0.18	5,145	0.17
漁業	800	0.03	1,217	0.04
鉱業、採石業、砂利採取業	6,456	0.22	6,093	0.20
建設業	101,117	3.45	95,493	3.07
電気・ガス・熱供給・水道業	43,452	1.48	47,761	1.54
情報通信業	19,634	0.67	18,601	0.60
運輸業、郵便業	105,503	3.60	113,967	3.66
卸売業、小売業	330,644	11.29	339,001	10.90
金融業、保険業	272,820	9.32	295,522	9.50
不動産業、物品賃貸業	365,818	12.49	406,752	13.08
各種サービス業	204,252	6.98	210,356	6.76
地方公共団体	441,788	15.09	484,006	15.56
その他	670,939	22.91	716,992	23.05
海外及び特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
合計	2,928,459	—	3,110,177	—

- (注) 1. 「国内」とは、当行及び連結子会社であります。
2. 「海外」とは、海外店及び海外連結子会社であります。当行は前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、海外店及び海外連結子会社を保有していません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題、研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、当行グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。また、研究開発活動に関しては該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	576,999,367
計	576,999,367

###### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	346,253,472	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	株主としての権利内容に制限のない標準となる株式で、単元株式数は1,000株であります。
計	346,253,472	同左	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年12月31日	—	346,253	—	32,776	—	18,635

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成28年9月30日の株主名簿により記載しております。

### ① 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 886,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 343,365,000	343,365	—
単元未満株式	普通株式 2,002,472	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	346,253,472	—	—
総株主の議決権	—	343,365	—

(注) 1. 上記の「単元未満株式」の欄には、当行所有の自己株式559株が含まれております。

2. 中間連結財務諸表においては、平成28年9月30日現在に第四銀行職員持株会専用信託口が所有する当行株式1,907千株を含めて自己株式として計上しております。なお、当該株式は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」に含まれております。

### ② 【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社第四銀行	新潟市中央区東堀前通七 番町1071番地1	886,000	—	886,000	0.25
計	—	886,000	—	886,000	0.25

(注) 1. 株主名簿上は第四証券株式会社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が66,000株(議決権66個)あります。なお、当該株式は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」に含まれております。

2. 中間連結財務諸表においては、平成28年9月30日現在に第四銀行職員持株会専用信託口が所有する当行株式1,907千株を含めて自己株式として計上しております。なお、当該株式は上記「自己株式等」には含まれておりません。

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自平成28年10月1日 至平成28年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の四半期レビューを受けております。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	448,898	529,299
買入金銭債権	16,506	17,555
商品有価証券	2,251	2,010
有価証券	※2 1,784,598	※2 1,792,441
貸出金	※1 2,949,815	※1 3,110,177
外国為替	11,203	10,961
その他資産	74,212	75,443
有形固定資産	44,493	44,447
無形固定資産	10,652	12,168
繰延税金資産	723	763
支払承諾見返	14,500	13,584
貸倒引当金	△15,605	△14,514
資産の部合計	5,342,251	5,594,339
<b>負債の部</b>		
預金	4,345,839	4,384,911
譲渡性預金	199,197	190,422
債券貸借取引受入担保金	192,047	318,285
借入金	197,067	290,452
外国為替	131	368
その他負債	45,067	43,199
役員賞与引当金	103	—
退職給付に係る負債	6,578	5,156
役員退職慰労引当金	31	31
睡眠預金払戻損失引当金	454	364
偶発損失引当金	1,006	835
特別法上の引当金	16	12
繰延税金負債	14,991	15,235
再評価に係る繰延税金負債	5,533	5,532
支払承諾	14,500	13,584
負債の部合計	5,022,567	5,268,392
<b>純資産の部</b>		
資本金	32,776	32,776
資本剰余金	25,987	25,152
利益剰余金	193,584	196,202
自己株式	△6,777	△2,869
株主資本合計	245,571	251,261
その他有価証券評価差額金	57,002	55,879
繰延ヘッジ損益	△422	△339
土地再評価差額金	6,931	6,930
退職給付に係る調整累計額	△4,423	△3,725
その他の包括利益累計額合計	59,088	58,744
新株予約権	508	467
非支配株主持分	14,515	15,474
純資産の部合計	319,683	325,947
負債及び純資産の部合計	5,342,251	5,594,339

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
経常収益	75,026	70,643
資金運用収益	40,388	38,504
(うち貸出金利息)	24,495	22,355
(うち有価証券利息配当金)	15,472	15,743
役務取引等収益	14,055	13,158
その他業務収益	3,554	2,353
その他経常収益	※1 17,027	※1 16,627
経常費用	54,474	56,709
資金調達費用	2,693	3,340
(うち預金利息)	1,458	854
役務取引等費用	3,468	3,565
その他業務費用	391	895
営業経費	35,076	35,451
その他経常費用	※2 12,843	※2 13,456
経常利益	20,551	13,934
特別利益	2	4
固定資産処分益	2	0
金融商品取引責任準備金取崩額	—	3
特別損失	51	21
固定資産処分損	35	19
減損損失	16	2
税金等調整前四半期純利益	20,502	13,916
法人税、住民税及び事業税	4,453	3,177
法人税等調整額	1,976	260
法人税等合計	6,430	3,437
四半期純利益	14,072	10,479
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,157	659
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,914	9,819

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	14,072	10,479
その他の包括利益	△6,019	△32
その他有価証券評価差額金	△6,380	△813
繰延ヘッジ損益	29	83
退職給付に係る調整額	331	697
四半期包括利益	8,052	10,446
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,222	9,478
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,169	968

## 【注記事項】

### (会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

### (会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

当行は平成28年4月1日以後に取得した建物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更することに伴い、建物本体についても、従来より一体利用していた事実を重視し、償却方法を合わせた方が、経営の実態をより適切に期間損益に反映できると判断したため変更を行ったものであります。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

## (追加情報)

### (従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

#### (1)取引の概要

当行は、平成27年11月13日より従業員への福利厚生を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

当制度は、「第四銀行職員持株会」(以下、「持株会」)に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。当制度では、当行が信託銀行に「第四銀行職員持株会専用信託」(以下、「従持信託」)を設定し、従持信託は、その設定後5年間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当行株式を予め取得します。その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当行株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。なお、当行は、従持信託が当行株式を取得するための借入に対し保証をすることになるため、当行株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入残債がある場合は、保証契約に基づき、当行が当該残債を弁済することになります。

#### (2)信託が保有する当行の株式

信託に残存する当行株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額および株式数は、979百万円、1,707千株であります。

#### (3)総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

1,199百万円

### (「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
破綻先債権額	1,328百万円	1,011百万円
延滞債権額	51,516百万円	47,801百万円
3ヵ月以上延滞債権額	150百万円	425百万円
貸出条件緩和債権額	4,220百万円	5,106百万円
合計額	57,216百万円	54,345百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※2. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
64,170百万円	68,905百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
貸倒引当金戻入益	1,223百万円	207百万円
償却債権取立益	967百万円	500百万円
株式等売却益	1,660百万円	1,830百万円

※2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
貸出金償却	573百万円	1,104百万円
株式等売却損	659百万円	675百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
減価償却費	1,900百万円	1,715百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年12月31日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)(注)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,402	4.00	平成27年3月31日	平成27年6月25日	利益剰余金
平成27年11月13日 取締役会	普通株式	1,529	4.50	平成27年9月30日	平成27年12月7日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、職員持株会専用信託に対する配当金（平成27年6月24日定時株主総会7百万円、平成27年11月13日取締役会7百万円）を含めております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成27年5月8日開催の取締役会決議に基づき、自己株式を5,499百万円取得いたしました。

また、平成27年10月1日付の当行と連結子会社である第四証券株式会社との株式交換に伴い、自己株式を3,448百万円処分いたしました。この株式交換に伴い、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が2,954百万円増加しております。

当第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)(注)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,552	4.50	平成28年3月31日	平成28年6月27日	利益剰余金
平成28年11月11日 取締役会	普通株式	1,554	4.50	平成28年9月30日	平成28年12月5日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、職員持株会専用信託に対する配当金（平成28年6月24日定時株主総会10百万円、平成28年11月11日取締役会8百万円）を含めております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	証券業	計				
経常収益								
外部顧客に対する経常収益	58,515	12,395	2,319	73,230	2,013	75,243	△217	75,026
セグメント間の内部経常収益	494	487	0	982	1,107	2,090	△2,090	—
計	59,010	12,883	2,320	74,213	3,121	77,334	△2,308	75,026
セグメント利益	18,721	649	224	19,595	1,005	20,600	△48	20,551

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。  
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業務、クレジットカード業務等を含んでおります。  
3. セグメント利益の調整額△48百万円には、セグメント間取引消去等△7百万円、第四証券株式会社との株式交換に伴い発生した取得関連費用△41百万円が含まれております。  
4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損については、重要性が乏しいことから、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	証券業	計				
経常収益								
外部顧客に対する経常収益	54,156	12,749	2,158	69,064	2,071	71,135	△491	70,643
セグメント間の内部経常収益	1,508	444	2	1,956	1,085	3,042	△3,042	—
計	55,665	13,194	2,160	71,020	3,157	74,177	△3,533	70,643
セグメント利益	12,907	824	344	14,077	878	14,955	△1,021	13,934

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。  
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業務、クレジットカード業務等を含んでおります。  
3. セグメント利益の調整額△1,021百万円は、セグメント間取引消去等であります。  
4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損については、重要性が乏しいことから、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。なお、四半期連結貸借対照表(連結貸借対照表)計上額の重要性が乏しい科目については、記載を省略しております。

前連結会計年度(平成28年3月31日)

科目	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時 価(百万円)	差 額(百万円)(※1)
現金預け金	448,898	448,898	—
有価証券			
売買目的有価証券	1	1	—
満期保有目的の債券	77,676	82,268	4,591
その他有価証券	1,703,098	1,703,098	—
貸出金	2,949,815		
貸倒引当金(※2)	△14,616		
	2,935,199	2,967,862	32,663
預金	4,345,839	4,346,063	△224
譲渡性預金	199,197	199,198	△0
債券貸借取引受入担保金	192,047	192,047	—
借入金	197,067	197,119	△51
デリバティブ取引(※3)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	1,764	1,764	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(2,856)	(3,363)	△507
デリバティブ取引計	(1,092)	(1,599)	△507

(※1) 差額欄は評価損益を記載しております。

(※2) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(※3) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引及び金利スワップの特例処理を採用している取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で表示しております。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

科目	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時 価(百万円)	差 額(百万円)(※1)
現金預け金	529,299	529,299	—
有価証券			
売買目的有価証券	1	1	—
満期保有目的の債券	76,636	80,245	3,609
その他有価証券	1,711,786	1,711,786	—
貸出金	3,110,177		
貸倒引当金(※2)	△13,630		
	3,096,547	3,114,126	17,578
預金	4,384,911	4,385,155	△243
譲渡性預金	190,422	190,422	△0
債券貸借取引受入担保金	318,285	318,285	—
借入金	290,452	290,481	△29
デリバティブ取引(※3)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(1,563)	(1,563)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(2,789)	(3,249)	△459
デリバティブ取引計	(4,352)	(4,812)	△459

(※1) 差額欄は評価損益を記載しております。

(※2) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(※3) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引及び金利スワップの特例処理を採用している取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で表示しております。

(注) 1. 現金預け金の時価の算定方法

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。また、満期のある預け金については、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

2. 有価証券の時価の算定方法

株式は取引所の価格、債券は日本証券業協会公表の売買参考統計値、又は取引金融機関から提示された価格等によっております。投資信託は、取引所の価格、公表されている基準価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

自行保証付私募債のうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、発行体の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは私募債の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をスワップ金利等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた金額に保証料を加味して時価を算定しております。

なお、満期保有目的の債券で時価のあるもの及びその他有価証券で時価のあるものに関する注記事項については、「(有価証券関係)」に記載しております。

3. 貸出金の時価の算定方法

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額(一般貸倒引当金控除前)と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をスワップ金利等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率または同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額(一般貸倒引当金控除前)と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は四半期連結決算日(連結決算日)における四半期連結貸借対照表(連結貸借対照表)上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額(一般貸倒引当金控除前)に近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

4. 預金及び譲渡性預金の時価の算定方法

要求払預金については、四半期連結決算日(連結決算日)に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期性預金及び譲渡性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

5. 債券貸借取引受入担保金の時価の算定方法

約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

6. 借入金の時価の算定方法

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行及び連結子会社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

7. デリバティブ取引

デリバティブ取引については、「(デリバティブ取引関係)」に記載しております。

(有価証券関係)

※1. 企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。

※2. 四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載しております。

#### 1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	72,093	76,622	4,529
社債	5,583	5,646	62
合計	77,676	82,268	4,591

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	72,079	75,643	3,564
社債	4,557	4,601	44
合計	76,636	80,245	3,609

#### 2. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	69,316	112,368	43,052
債券	1,129,268	1,159,920	30,651
国債	792,122	815,094	22,971
地方債	160,738	165,667	4,929
社債	176,407	179,158	2,750
その他	424,218	434,113	9,894
合計	1,622,802	1,706,402	83,599

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	68,270	128,165	59,894
債券	1,005,368	1,028,199	22,830
国債	652,630	669,716	17,085
地方債	163,481	167,261	3,779
社債	189,257	191,221	1,964
その他	558,336	557,998	△338
合計	1,631,976	1,714,362	82,386

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、371百万円(うち株式227百万円及び債券143百万円)であります。

当第3四半期連結累計期間における減損処理額は、169百万円(うち株式15百万円、債券153百万円)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は自己査定基準に定めております。債券については、時価が取得原価に比べて30%以上下落している場合や、発行会社の財務状態などを勘案し、減損処理を行っております。株式及び証券投資信託については、期末日における時価が取得原価に比べて50%以上下落した銘柄については全て減損処理を行うほか、時価が30%以上50%未満下落した銘柄については、基準日前一定期間の時価の推移や発行会社の財務状態などにより時価の回復可能性を判断し減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
店頭	金利スワップ	74,358	241	241
	金利オプション	14,746	0	△133
合 計		—	241	108

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、ヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

2. 時価の算定

割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
店頭	金利スワップ	97,505	393	393
	金利オプション	4,391	0	△54
合 計		—	393	338

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、ヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

2. 時価の算定

割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
店頭	通貨スワップ	21,278	32	32
	為替予約	49,936	1,489	1,489
	通貨オプション	428,168	0	2,607
合 計		—	1,522	4,129

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
店頭	通貨スワップ	16,553	26	26
	為替予約	38,228	△1,982	△1,982
	通貨オプション	332,778	△0	1,659
合計		—	△1,956	△296

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。  
 なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の四半期連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。
2. 時価の算定  
 割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

(5) 商品関連取引

該当事項はありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	37.55	28.62
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	12,914	9,819
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	12,914	9,819
普通株式の期中平均株式数	千株	343,913	343,019
(2) 潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円	37.37	28.49
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額	百万円	—	—
普通株式増加数	千株	1,585	1,555
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要		—	—

(注) 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する当行の株式は、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間1,897千株、当第3四半期連結累計期間2,024千株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

### 中間配当

平成28年11月11日開催の取締役会において、第206期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額 1,554百万円

1株当たりの中間配当金 4円50銭

(注) 中間配当金の総額には、職員持株会専用信託に対する配当金8百万円を含めております。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年2月6日

株式会社第四銀行  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	白	川	芳	樹	㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	飯	田	浩	司	㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	植	草	寛		㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社第四銀行の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社第四銀行及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年2月6日
【会社名】	株式会社第四銀行
【英訳名】	The Daishi Bank, Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 並 木 富 士 雄
【最高財務責任者の役職氏名】	—
【本店の所在の場所】	新潟市中央区東堀前通七番町1071番地1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社第四銀行 東京支店 (東京都中央区日本橋室町1丁目6番5号 だいし東京ビル)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当行取締役頭取並木富士雄は、当行の第206期第3四半期（自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。